

駒の館だより

第23号

平成16年3月1日 発行

明治鍼灸大学附属図書館

〒629-0392 京都府船井郡日吉町

TEL.0771-72-1181 (代)

明治鍼灸大学図書館報



目次

- ① 巻頭随筆「百聞は一見に如かず」 松浦 忠夫
- ② 自著を語る
—柔道整復師のための超音波観察法— 中村 辰三
“ザ・ペーハー あなたのはいくつ?” 森本 安夫
- ③ 私のお薦めの1冊
EBM 物理療法 根拠・意思決定・臨床適応 池内 隆治
健康心理学 真田 民樹
- ④ 特集1
病床で印象に残った一冊の本 尾崎 昭弘
- ⑤ 特集2
「ひとの考え・思想を伝えてきたもの」 清野 充典
- ⑥ 新着図書案内一覧 附属図書館
- ⑧ 図書館からのお知らせ／編集後記 //



「百聞は一見に如かず」

附属図書館長 松浦 忠夫

「百聞は一見に如かず」あるいは「Seeing is believing.」、少々ニュアンスは異なるようですがいずれも物事を理解するには「見る」ことが最も効率的ということでしょう。しかし「見たら理解できる」、「見えたものは正しい」と言えるでしょうか。誰も経験しているように現実はそのほど単純ではありません。「見る」という行為は、みえるものを目にとめること、と辞書には記してありますが、冒頭のことわざに言う「見る」はこのような受け身のなものではなく、「観る（観察する）」あるいは「診る」という字が当てられるべきもので、他と比べて考える、よくみて判断する、という意味が含まれています。そうでなければ物事の正確な理解にはつながりません。さらに確かめ、判断し、理解する為には十分な知識の裏付けが必要です。

今我々の周囲には視覚に訴える媒体があふれています。さまざまな事柄が、法律でさえ、漫画で図解され、コンピューターの世界では virtual reality、computer graphics など非現実的世界が展開されている。誇張

され、仮想された画像、映像が否応なく飛び込んでくる環境の中で物事の真偽を見極め、正しく認識し、理解する為には今まで以上の知識が要求されています。

その知識の最大、最良の源泉は今も変わらず文字情報。文字離れが進んでいるといわれる昨今、本当はますます文字情報が必要とされている。皮肉な現象ではあります。

本学で学ぶ学生の皆さん、「学んで」、「読んで」裏付けとなる知識を蓄えて、「観て」そして「診て」、臨床家、研究者あるいは教育者として大成されることを祈っています。

“先生の講義をしっかりと「聞いて理解する」ということが大前提ですよ!!”

カラクサケマン（薬草）

学名 *Fumaria officinalis* L.
エンゴサク科

道端や、森の外れ、果てしなく広がる晩秋の荒野などのいたる所で見つけることができます。

(効能)

リウマチ・腎臓結石・膀胱炎・淋疾・利尿作用・浄化作用等



—柔道整復師のための超音波観察法—

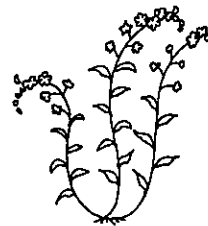


柔道整復学教室
中村 辰三

9月9日付け「施術所における柔道整復師による超音波画像診断装置の使用について」(回答)として厚生労働省から正式回答があった。内容は「検査自体に人体に対する危険性がなく、かつ、柔道整復師が施術に関わる判断の参考とする超音波検査については、柔道整復の業務の中で行われていることもある。」との文書だった。こ

この発端は保健所が超音波装置使用について施術所へ立ち入り調査をし、同保健所長から取り扱い禁止の文書通知があった。これに対しなぜ使用してはいけないのか、その法的根拠を照会し回答されたものである。柔道整復師は臨床検査師などの業務のように診療の補助行為を業とするものではなく、医師の指示を必要としない独立開業権がある点が大いに異なる。その業務の範囲内で施術の参考にすることは患者のためであり、

回答のごとく当然と考えられる。問題は業務範囲内での使用遵守や患者への説明の仕方(診断名をいう)にある。この点に関しては十分に注意を払う必要があり教育の徹底が望まれる。私は平成7年頃から共著者である増田先生から相談を受け柔整師向けの超音波観察法について取り組むことになった。暫くブランクもあったが柔整科担当を命ぜられる(予感もあり)数年前から再スタートさせた。正式教科(柔道整復概論Ⅳ)の一部として超音波観察法を教えることになり、今後の柔道整復師には欠かせぬものと考えられるので、身の引き締まる思いである。テキストとして5月に完成、どうか間に合って一先ず安堵している。まだまだ不備な点も多くあり、写真も初期のものはリニューアルの必要に迫られている。どうぞご批判、ご指摘をよろしくお願い申し上げます。



“ザ・パーハー あなたのはいくつ?”



物理学教室
森本 安夫

2流、3流を問わなければ私も一応学者の端くれと思っている。大学に籍を置き、物理と統計の講義をやり、その合間に研究をして論文を書いていればそう言わせてもらっても罰は当たるまい。例えその講義に学生が誰一人として鼻をひっかけてくれなくても、また書いた論文が世の中に役に立つことが未来永劫無かったとしてもだ。

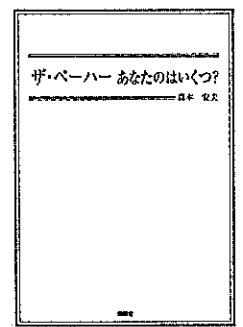
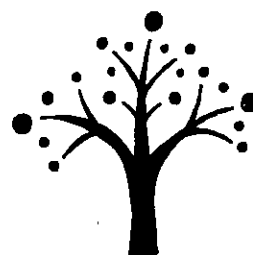
動作させるためだ。その理論を微に入り細に渡って数学的なことも含めて高校生でも分かるように解説している。内容は本学の学生諸君なら一度は聞いたことがあるはずのものだ。

しかし評判は至ってよろしくない。“硬い本は売れない”ということが身に滲みて分かった。商売人が商品を売る苦勞を実感した。以来会う人ごとに“買って、買って”と喚んでいる。そう言えば昔、場末の飲み屋の薄暗い部屋の片隅でビール瓶を傾けながらお姐さんがつぶやいていたのを思い出す。“売り上げに協力してね”。

新風舎、東京、6月25日、2003年、1,000円

大事なのは見かけなのだ。

学者なら熱い想いがある。自分が生涯かけた仕事をいつの日か1冊(別に2冊、3冊でもかまわないが)の著作にまとめてみたいという想いだ。“その想いを達成したのが本書だ!”ではない。これは私の研究の集大成ではなく、講義のために厭々ながらまとめあげたものだ。内容は赤い血の、PHと呼ばれる量の理論である。血液の中ではPHは一定に保たれている。生命を維持する物質を合成するのに必要な酵素を正常に



私のお薦めの一冊

EBM 物理療法

根拠・意思決定・臨床適応

Michelle H. Cameron 編著
眞野行生 渡辺一郎 監訳
医歯薬出版、2003年刊



柔道整復学教室
池内 隆治

この図書はアメリカのカリフォルニアにある Samuel Merritt College の客員講師である Michelle H. Cameron が著わした「Physical Agents in Rehabilitation from Research to Practice」を北海道大学大学院の眞野行生らが訳したものであります。

リハビリテーション領域で用いられる物理療法すなわち温熱療法、水治療法、機械的 電氣的療法などの手技や方法を解説したものは、これまでに多く出版されています。しかしこの図書ほど物理療法を研究成果（科学的根拠）から実践臨床応用にいたる過程を分かりやすく

解説したものはありません。

編著者自身が自信をもって、この図書はリハビリテーション領域すなわち理学療法士に最適なテキストであることを主張しています。もちろん物理療法を扱う柔道整復師や鍼灸師にとっても充分役立つ内容を有していることはいうまでもありません。

特徴として、各物理療法の各セクションには「臨床症例研究」がもうけられています。内容は、症例をあげて「臨床所見の分析」、「治療目標」、「治療法の妥当性に関する評価」および治療計画と理論的根拠」をわかりやすく解説しているものです。

近年、「EBM(Evidence of Based Medicine: 科学的根拠に基づいた医療)」が重視され、臨床の場においてもどのような治療機器が症状の改善に医治的・治療的作用をもつのかその根拠を明確にしなければならぬ時勢となっています。そのような状況下で平成15年6月に発行されたのがこの図書であります。出版されてまだわずかですが、近い将来に理学療法士だけでなく柔道整復師や鍼灸師にとって、また本学の学生諸君にとって必須アイテムとなる日は近いと感じています。

健康心理学

野口京子著 金子書房、1998年刊



保健体育教室
眞田 民樹

今回寄稿するにあたり、本学教育課程「一般教養 基礎医学 臨床医学 鍼灸医学」とある中で私の担当する、フィールドワーク実習 健康科学の科目では、人の健康に対する知識と身体活動を介して健康教育するのが目的であるが、今回紹介する「健康心理学」と言う著書だが、なぜ心理学か？本学の教育システムに心理学 臨床心理学の授業

科目（必修選択）があるので基礎は理解されていると思われる。医療に携わる者として、まず健康を見つめる感性を磨くには心理学的知識が必要と考える。我々教職員も学生の質の変化を敏感に感じる必要性があり、見た目にはわからない個人の情緒を感じ対処する能力を身につける参考となる書である。

この健康心理学の考え方が創設されてまだ日が浅く

1988年である。背景には、急速に変化する社会と疾患の様変わりが大きなストレスの要因と定義している。著書の中で、健康的なライフスタイルの獲得の必要性が強調され心理学的手法が担う位置を明確に示している。それは、①病因となる行動を評定する②不健康な健康行動を予測する③病気になったときの心理学の役割を理解する④病気の治療における心理学の役割を評定する。が健康心理学の理論であり、実践的には、(1)健康的な行動を増進する(2)病気を予防するが目的となる。

著書の概要は次のとおり、1、健康心理学の基盤となる心理学の概念 2、健康行動の理解 3、ストレスと健康 4、パーソナリティーと健康 5、生活習慣と健康 6、ソーシャルサポート 7、ヘルケースシステム 8、健康教育 9、健康心理カウンセリング 10、健康的な生活習慣をつくる

この著書は大変読みやすく、健康心理学の入門書として最適である。また、本図書は体育学教室が研究図書として管理しているので、見たい人は問い合わせ下さい。

病床で印象に残った一冊の本 岩波新書「正念場？不易と流行の間で？」との出会い



基礎鍼灸医学教室 尾崎 昭弘

平成14年5月中旬、突然、腹痛・腹鳴・下痢に襲われた。当初、風邪または食中毒かなと思いながら近医を受診し、自宅静養に努めたが一向に良くならないため、6月に入って本学附属病院に入院した。その結果、悪性の病気で長期化学療法が必要であることが判明し、京都府立医科大学附属病院血液内科に転院して療養することになった。

府立医大附属病院での療養生活にも慣れ、治療も第3クールの終わりに入った9月の下旬、本学名誉教授の丹澤章八先生が8階の私の居る病室に見えた。お話をしている間に読書に話題が移った。普段から医学関係書籍や論文は読んでも、他分野の書籍や一般書はあまり読んでいない私にとって、お話を伺いながら丹澤先生の読書の幅の広さに大変驚いた。

そこで、この機会に他分野の書籍や一般書を読もうと思い、丹澤先生にも近年に読んだ本の中で印象深いもの、気楽に読める一般書などの紹介をお願いした。

しばらくして、丹澤先生からメールが入った。メールには、病床で読みやすそうな本のタイトルがコメント付で記されていた。岩波新書「正念場？不易と流行の間で？」もこの中に記されていた。

このような経緯を経て、岩波新書「正念場」と私は出合った。私は、この本を最初に読んでみたいと思った。多分、これは自らも病に対する正念場を迎えているという思いが読書欲を強くかりたてたためだと思う。しかし、この本を読み進めていくと、私の読書欲をかりたてた小さな動機はすぐに消えた。それは、社会・文化・芸術などの広い観点から現実を見つめ、自分自身の考え方や、身の処し方等についての正念場が随所に示されていることに気づいたからである。

この本の著者は、哲学者で明治大学名誉教授の中村雄二郎氏である。本の内容は、1996年4月～1998年8月まで東京新聞と中日新聞に連載された「不易と流行の間で」というエッセーがもとになっている。

目次をみて、真っ先に目が点のように固定されたのは（病人ゆえのことかもしれないが）「6. 生と死のデザイン」である。この項には、「ある自然体の生き方」や「美しい死」など、病人の心臓の鼓動が高まり

そうな内容が記されている。

ある自然体の生き方では、歌舞伎・舞踊・民間芸能の郡司正勝氏の生き方に触れ、偲ぶ会が作成した『面影草』の「迷語抄」に収載される言葉を記している。その最後には、「老人だと本当に思ったら生きていられるものではない」という郡司氏の言葉が記され、この反語的な言葉のうちこそ、郡司氏の精神的な若さ

と「自然体の生き方」の秘訣があったのではないかと結んでいる。つまり、著者は「自然体の生き方と外側からは見えるものが、実はある境遇のもとで意思と努力の結果得られたものである」と看破しているのである。

美しい死では、病理解剖に立ち会って目にしたご遺体を見て「美しい死」である場合とそうでない場合があることを紹介しており、医療のあり方に一石を投じている。つまり、剖見所見は千差万別、百例百様であるが、「適度の治療が施された後に死を迎えたご遺体の内臓は、剖見者には美しいと映る」とし、それは「節度ある医療」、「品位ある医療」の結果であるとしている。

読み終えて、常に正念場に立たされているという自覚と、あえて正念場に立つ覚悟を持つことの重要性を、あらためて強く知らされた一冊の本である。



「ひとの考え・思想を伝えてきたもの」

—文字・符号・漢字—



たには会副会長 清野 充典

母校明治鍼灸大学を卒業し22年が経ちました。昭和62年に東京都調布市で開業し現在に至っておりますが、大学の同窓会「たには会」の副会長をさせていただいていることからたびたび日吉の地を踏んでおります。繁栄の一步をたどっている母校をうれしく思い、また誇りに感じております。

昭和54年（1979年）に入学した当時は、鍼灸に関する本は殆どなく、主な情報誌は『医道の日本』誌以外に見当たらなかったため、各種講習会に足を運びしか情報を得る方法のなかった時代でした。昭和に名をはせた先生の著書も殆どなく、鍼灸関係の本が1冊出版されるたびに喜んで購入していました。当時よく読まれていた本は、

首藤博明先生（現日本伝統鍼灸学会会長）の『経絡治療のすすめ』でした。

昭和60年代（1985年以降）に入り情報誌が3～4冊に増え、鍼灸関係の本が急速に増えました。有益な本は数冊で、枝葉末節を取り上げた内容のものが多いような印象を持っていますが、業界が活気付いてきた感はありました。

やがて10年が経ち、バブルが崩壊した1995年以降は情報誌が再び衰退を始めました。鍼灸関係の本もあらかた出尽くしたのか、目新しい本が目になくなりました。時代は手紙からFAX、そしてEメールへと移り変わっていきます。活字から映像が主流になり、情報の伝達もスピーディーになりました。あふれかえる情報の中で必要な情報、正確な情報を取捨選択するのに余計な時間を要することも多々あります。大量の情報は、CDにコピーして郵送する時代になりました。本は重くて場所をとり、時と共に風化していく

ものになりつつあるのでしょうか。辞書は電子辞書。ゆっくりと文字を繙くこともなくなりつつあります。インターネットはお金と時間をかけず情報を手に入れることを可能にしました。

便利な世の中を痛感する2003年（平成15年）ですが、国民が落ち着いて物事を思考することがなくなった印象を受けます。ゆっくり読書をする、1文字1文字大切に辞書を繙き「漢字」という悠久の歴史を持つ象形文字をじっくり噛み締める、ということは人格形成にも役立ち柔軟な思考を養うはずで、情報はただ「知識」を収集していることに過ぎません。私は、人間社会を生きていくためには「知識」を「知恵」に替

える必要があると考えています。書物のみで読み取ることも「知識」を得たことに過ぎませんが、先人が力を注いで書き上げた今に残る本をゆっくり読むことは、行間を読む力を養います。そのことこそが、「知識」を「知恵」に替える能力をつけるために必要なことであると考えています。「知恵」は人



生最大の源になると考えます。

私事になりますが、平成15年10月25日に『鍼灸事故防止マニュアル』と題した本を出版いたしました。歴史のあるこの分野で、誰もが理解できる言語を使用することの難しさを痛感致しました。自分の発する言葉・書き表す文字の意味を常に考え・学習する、楽しい日々を送っています。

新着東医系図書及び医学系視聴覚資料一覧

(平成15年1月～12月収蔵分)

書名	著者名等	出版社
健康にする整体病気になる整体 その違いは、内臓のコリを治せるかどうかに 医道の日本 臨時増刊 No.3 特集1:治療院経営の工夫 特集2:介護保険制度 現代医学に基づく 葉ギライな人葉の飲めない人のための民間療法 2003年版 改訂版 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・柔道整復師 国家試験 黄帝内経靈枢 現代語訳 下巻 鍼灸臨床の科学 皮内針法 奇穴図譜 奇跡のツボが見つかった あきらめていた病気が、みるみる消え去る! 経別・経筋・奇経療法 経絡大循環 その構造と調整針法 刺絡聞見録 こんなに効く手のツボ刺激療法 もむだけでぐんぐん治る手の反射帯療法! 刺絡鍼法マニュアル 写真で見る 一初歩から臨床応用まで一 原色針灸穴位解剖図譜 針灸取穴入門 針灸舌診アトラス 一診断基礎と臨床の実際一 鍼灸治療基礎学 十四経絡図譜解説 鍼灸による即効療法 医歯鍼灸ノートブック もっとも詳しく、もっともわかりやすく、もっとも斬新な 針灸臨床医典 初心者のための取穴法解説 新版 耳針療法の実際 臨床針灸処方の実際 図解 一病名・病症から配穴を導く一 舌診入門テキスト 特効手と足のツボ 難病の鍼灸治療 平田式十二反応帯熱針刺激療法 臨床にすぐ役立つはり入門 中西医結合による骨折治療学 鍼灸治療における感染防止の指針 増補版 鍼のエビデンス 鍼灸臨床評価論文のアブストラクト カイロプラクティックマニュアル 四肢編 最新のサブラクセーション理論に 疾患別 漢方・鍼灸臨床の実際 基礎から臨床まで あん摩マッサージ指圧師はり師きゅう師柔道整復師 国家試験臨床医学各論 臨床鍼灸医学を拓く! 科学化への道標 自力整体 骨盤のゆがみを治しキレイになる!健康になる! 自力整体入門 痛みとストレスがみるみる消える! 骨格バランスDIET 骨格から改善して理想のボディラインを手に入れる からだの形と健康。切っても切れないこの関係。 2003年版 代替医療市場の実態と将来予測 日本鍼灸医学(経絡治療・基礎編) 臟腑経絡学 鍼のエビデンス 鍼灸臨床評価論文のアブストラクト 足の親指の曲がり「外反母趾」は自分で治せる 足の痛みと変形を解消する キャスト法マニュアル 整形外科手術後療法ハンドブック 改訂第4版 股関節症 患者と医師のためのガイド AO法骨折治療 バイオメカニクス研究 Vol.1～5 :1997～2001 (日本バイオメカニクス) 経穴の使い方鍼の刺し方 上地先生の実戦鍼灸学	大輪紀代志 東畑 朝子 監修 あん摩マッサージ指圧師・鍼灸師 南京中医学院中医系 編著/石田 西條一止 監修/熊澤孝朗 監修/ 赤羽幸兵衛 陸瘦燕 編著/朱汝功 編著/間中 前田 昌司 入江 正 山田新一郎/中村辰三 監修 伊藤大助 筆記/工藤訓正 ほか 五十嵐康彦 日本刺絡学会 編 中国山東科学技術出版社 入江 靖二 藤本蓮風/平田耕一/山本哲斉/ 代田文誌/澤田 健 校訂 国分 壯/橋本敬三 山田 國弼 間中 喜雄 清水 蓮 国際中医学研究会 編 丸山 彰貞 中山 仁二 張 仁/浅野 周 訳 間中 喜雄 森 秀太郎 中華人民共和国天津反帝病院革命 小林寛伊 監修/鍼灸治療におけ 津谷喜一郎 監訳 Grant・レイド/D.C. 松本 嘉一 あん摩マッサージ指圧師・鍼灸師 西條 一止 矢上 裕 矢上 裕 斉藤美恵子 編著/(株)至楽社 林 宗駿 生命科学産業調査本部 調査・編 岡部素明/岡田明三/樋口秀吉 藤本蓮風 監修/奥村裕一 編著/ 津谷喜一郎 監訳 内田 俊彦 桜井 修/田中寿一/山田 博/ 片田重彦/吉澤英造/矢部 裕 ほか 村瀬鎮雄 編者/廣橋賢次 編者 Thomas P. Ruedi ほか 原書編集主 鍼灸素霊会 編著	現代書林 医道の日本社 ソフトバンク・パブリッ 桐 書 房 東洋学術出版社 医 歯 薬 出 版 医道の日本社 医道の日本社 徳 間 書 店 医道の日本社 医道の日本社 自 然 社 日 本 文 芸 社 緑 書 房 亜東書店/燎原書店 緑 書 房 緑 書 房 医道の日本社 医 歯 薬 出 版 け い せ い 医道の日本社 刊 々 堂 出 版 社 緑 書 房 エ ン タ プ ラ イ ズ 西 東 社 緑 書 房 医道の日本社 医道の日本社 中国医学出版社 医 歯 薬 出 版 医道の日本社 医道の日本社 た に く ち 書 店 桐 書 房 医 歯 薬 出 版 新 星 出 版 社 P H P 研 究 所 ス ー パ ー コ ン ネ ン タ ル 三 想 社 矢 野 経 済 研 究 所 経 絡 治 療 学 会 アルテミシア(学校法人森 医道の日本社 マ キ ノ 出 版 南 江 堂 南 江 堂 金 原 出 版 医 学 書 院 日本バイオメカニクス学会 続 文 堂 出 版

代替治療と免疫力・自然治癒力
 今日から使える身近な疾患35の治療法 はりきゅうは癒しの天才
 わかりやすい臨床中医診断学
 整体法はこう診るこう手当てする 整体の神髄をわかりやすく解説
 姿勢の医学 身体バランス法“ゆがみ”を正す!!
 臨床経絡経穴図解 第2版
 整体入門
 なぜ「長命整体」で万病が治るのか! 「癒し系」から「治し系」の時代へ
 体のゆがみを治す! 筋肉 筋膜ほぐし
 不快な症状を家庭で解消! 5分間ツボ療法 ゆとりの時間を活用して元気な体
 鍼灸事故防止マニュアル
 図解 鍼灸臨床手技マニュアル
 はり灸治療の手引
 あなたの病気はトントン骨調整法で治る 改訂版 痛みや病気の根本原因は変
 ぽっこりお腹は骨盤矯正で解消!! 健友館整体術ですっきりボディをゲット
 新版 受験ポイントマスター 共通科目編 柔道整復・あん摩・マッサージ・
 Touch Therapy
 整骨図説
 竹岡式接骨術
 整骨治療手技
 整形外科を育てた人達
 柔道整復白書 伝統医療の継承と明日への飛躍
 柔道整復学 理論編 改訂第4版
 骨折と外傷 治療の考え方と実際
 第5回～第9回 詳解 国家試験問題集 2002 柔道整復師用
 第6回～第10回 詳解 国家試験問題集 2003 柔道整復師用
 第6回～第11回 詳解 国家試験問題集 2004 柔道整復師用
 痛みの治療現場から 患者からの声 柔道整復師編
 柔道整復用語事典
 骨折の治療とリハビリテーション ゴールへの至適アプローチ
 他59タイトル

ほんの木 編
 三島 泰之
 王 財源
 井本 邦昭
 黒川 静雄
 山下 詢
 野口 晴哉
 浮 江東
 別冊宝島編集部 編者/村上一男
 佐々木邦男 監修
 清野 充典
 尾崎 昭弘
 杉山 勲
 島本三太郎
 越田 昭
 執筆小委員会/影山照雄 監修
 Tiffany Field/Leon Chaitow fo
 フェルリッヒ 原著/足立寛 訳述
 竹岡宇三郎 述/前田勘太夫 編
 武漢医学院附属第一医院 編/鳥
 天児民和/九州大学整形外科教室
 柔道整復白書編集会 編集
 (社)全国柔道整復学校協会
 山野 慶樹 編著
 明治東洋医学院編集委員会 編
 明治東洋医学院編集委員会
 明治東洋医学院編集委員会
 JB日本接骨師会 接骨医療臨床研
 西基 総 監修
 Stanley Hoppenfeld ほか/江藤
 ほんの木
 医道の日本社
 医歯薬出版
 三樹書房
 アスク
 医歯薬出版
 筑摩書房
 心泉社
 宝島社
 パッチワーク通信社
 興仁舎
 医歯薬出版
 源草社
 中央通信社
 健友館出版部
 医道の日本社
 Churchill Livingstone
 日本柔道整復師会
 日本柔道整復師会
 日本柔道整復師会
 九州大学整形外科教室同窓
 (社)日本柔道整復師会
 南江堂
 金原出版
 医道の日本社
 医道の日本社
 医道の日本社
 日本医学出版
 海馬書房
 南江堂

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ (視聴覚資料) ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

今日の診療 ハイブリット版 Vol.12
 経穴経絡総図 361穴
 今日の診療プレミアム ハイブリット版 Vol.12
 十二経絡図譜電子版 VER.1.00 for Windows
 Immunology Interactive Version 3.0 (免疫学インタラクティブ)
 Immunology Interactive Version 3.0 (免疫学インタラクティブ)
 NISHIYAMA COLLECTION 第1巻 感染症
 Sports Injuries Series (The Knee, The Foot Ankle and Lower-Leg, The Shoi
 Interactive Functional Anatomy
 Illustrated Skeletal Muscles Flash Cards
 30分でわかる頭痛、めまいの診かた
 スポーツ医学から診る 腰痛、膝関節障害の診断と治療
 スポーツ医学から診る 肩、頸、肘の痛み 診断と治療
 日常診療のためのしびれ・ふるえのプライマリ・ケア
 日常診療のための腰痛のプライマリ・ケア
 日常診療のための腰痛のプライマリ・ケア
 日常診療のための頭痛のプライマリ・ケア
 骨折
 脳・脊髄
 顔と首
 他33タイトル

代田 文彦
 藤本蓮風 監修/橋本浩一 制作
 西山 茂夫
 Susan K.Hillman
 David Garrison
 栗原照幸 監修/山本昌彦 監修/
 渡会公治 監修・指導/日経メデ
 渡会公治 監修・指導/日経メデ
 中林治夫 監修/日経メディカル
 柏木宏 監修/日経メディカル 企
 佐野茂夫 監修/日経メディカル
 五十嵐久佳 監修/日経メディカ
 東京都老人医療センター看護部
 山内 昭雄 監修・指導
 山内昭雄 監修・指導
 医学書院
 ムラマツ企画
 医学書院
 アルテミシア(学校法人森
 アトムス;(Elsevier Scienc
 アトムス;(Elsevier Scienc
 南江堂
 P L I M A L
 P L I M A L
 Mc Graw Hill
 日経 B P 社
 日経 B P 社
 日経 B P 社
 日経 B P 社
 日経 B P 社
 日経 B P 社
 日経 B P 社
 インターメディカ
 インターメディカ
 インターメディカ

図書館からのお知らせ

ブックディテクションシステムの設置

これまで幾度となく図書類の帯出に際しては、貸出手続きをとって頂くようお願いしてきましたが、依然として無断持ち出しが絶えません。毎年貴重な図書類が多数消失し、善良な利用者が多大な迷惑を被っています。

そこで今回ブックディテクションシステム（無断帯出警報装置）導入のやむなきに至りましたが、今後ともこのような装置の有無にかかわらず、図書館の資料の帯出には必ず正規の貸出手続きをとって頂くようお願い致します。

雑誌の新規購読および購読中止等について (2004年から)

*新規購読

月刊武道（バックナンバー2000年1月号～2003年12月号も購入）
NACSIS-IR（国立情報学研究所提供の情報検索サービス）
※広範囲の分野の文献情報や学術情報などを学内ランから検索できます。

接続先 <http://webfront2.nii.ac.jp/>（NACSIS-ELSは利用出来ません）

*購読中止

医学中央雑誌 CD-ROM版

※現在、医学中央雑誌 Web版（<http://login.jamas.or.jp/enter.html/>）を学内ランから検索できます。

私立大学図書館協会西地区部会京都地区 協議会主題別研究会B(業務)の開催

標記の研究会を平成15年11月14日(金)13時50分から明治鍼灸大学8号館（短期大学部棟）3階31号室において開催し、京滋・阪奈地区等から27大学32名が参加されました。

講演1.

演題：「オンライン・チュートリアルとデジタル・リファレンス」

講師：紀伊國屋書店OCLCセンター長 新元公寛 氏

講演2.

演題：「目の疲れ・肩こりのセルフケア・ツボ健康法」

講師：明治鍼灸大学学部長 健康鍼灸医学教室教授 矢野 忠



編集 後記

“自分のペースで学べるのが利点”

本学もはや26年、本学教員の著書も多くなりました。本を書くには莫大なエネルギーを要するものですが、本が多く出るとは本学の評価の向上にもつながるので、どんどん後に続いてほしいものです。

さて、読書で学ぶ利点の一つは、自分のペースで学べることではないでしょうか。多くのビジュアルな情報が溢れていますが、一定のスピードで提供される情報を見聞したり、講演や講義を聞いても、その時には分かったつもりで感心していても後にほとんど残っていないということはよくあることです。本を自分の記憶可能なペースで読んでしっかり脳に入力すれば、長く記憶にとどめておけるものです。学生の皆さん！図書館を大いに利用し、じっくりと本を読み込んで知的財産を貯え、将来に備えましょう！

M. T

図書館の利用上の注意

- 1、図書館利用者が快適な環境のなかでスムーズな図書資料の利用を行って頂く為、図書館利用規程（学生便覧等）は必ず一読し、ルール違反のないよう、互いに気を付けましょう。
- 2、図書館のコピー機は本来の利用目的（図書館資料の複製）に限定し、閲覧環境の改善および著作権問題の改善を図って参りますのでご協力の程よろしくお願ひします。

※ 図書館資料以外の複写は、事務棟学生窓口に設置のコピー機をご利用下さい。

平成15年度蔵書点検結果

平成15年8月の蔵書点検（開架図書）において、29冊（149,301円）の図書が紛失していました。

無断帯出の覚えのある方は至急返却して下さい。

平成14年度の蔵書現況

平成15年3月31日現在、()は外国書の内数。

- ・蔵書冊数：54,993冊（14,174）。昨年より1,812冊の増。
内訳：一般図書41,327冊（8,626）、点字図書1,404冊、製本雑誌10,737冊（5,443）、視聴覚資料1,525点（105）。
- ・雑誌タイトル数：202タイトル
内訳：学術雑誌185タイトル（71）、一般雑誌17タイトル

平成14年度図書館利用状況

1、貸出件数

(延べ数・短大含む)

区分	1年生	2年生	3年生	4年生	院 生	卒 研 生	その他	教職員	小 計
人数	442	500	186	630	193	80	80	276	2,387
%	17%	15%	6%	21%	10%	5%	5%	20%	100%
冊 数	765	654	263	903	451	203	215	881	4,335
%	11%	14%	12%	20%	6%	9%	1%	27%	100%

2、開架資料利用件数（閲覧・貸出）

(延べ数・短大含む)

区分	1年生	2年生	3年生	4年生	その他	小 計
人数	245	174	128	509	59	1,115
冊 数	328	226	165	819	116	1,654

3、文献複写（図書館間相互協力）

- ・受付件数 49件～911枚
- ・依頼件数 205件

4、休日開館（土曜日等）の利用状況

- ・開館日数 34日
- ・利用人数 98人

